

寫送先

會文人文情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

分類A.1.1.0.2/-12-2)

大臣 次官

電信課長

昭和7 一二二二一 暗 哈爾濱 五月二十一日前發 亞、條

本 省

芳澤外務大臣 長岡總領事代理

第五六六號

吉田ヨリ

第一五七號

「キニー」内報左ノ通

一、香上銀行支店長日ク滿洲國ニシテ幣制改革ヲ爲シ變動ヲ防クヲ得

ハ衆望之ニ歸セン

二、米國領事日ク嘗テ馬占山ニ會ヒシニ馬ハ阿片癮者ニシテ用ヲ爲サ

又口ヲ開カハ幕僚遮リ代ツテ答ヘ何等權威ナシ右爲人ハ「マツコ

S 1.1.1.0 - 33

1923

0556 (記)

外務省

寫送先

會文人文情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

分類A.1.1.0.2/-12-2)

大臣 次官

電信課長

昭和7 一二二七八 略 莫斯科 廿一日後發 歐亞、條

本 省 五月廿二日前着

芳澤外務大臣 廣田大使

第三二九號

二十一日ノ新聞ハ「タス」發表トシテ「リットン」委員會ヨリ在哈

爾賓總領事ヲ經テ蘇政府ニ對シ馬占山ト會見ノ爲「ブラゴエ」經由

黒河ニ赴ク爲通過査證ノ發給ヲ求メタルニ對シ蘇政府ハ滿洲ノ内政

不干渉主義ニ反スルヲ望マス同委員會ノ請求ニ應スルコト能ハスト

回答セシメタル旨掲載セリ

聯盟、英、佛、米、獨、哈爾濱ニ轉電セリ

哈爾濱ヨリ長春、奉天へ轉電アリタシ

S 1.1.1.0 - 33

1922

0555 (記)

外務省

寫送先

大臣 電信課長
次官 亞細亞
歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

(分類 A. 1. 1. 0. 2 / 1-2-2)

昭和7 一二二五七 暗
 本 省 五月二十一日後發 亞
 芳澤外務大臣
 第五六七號
 本官發齊々哈爾宛電報
 第一〇五號
 鹽崎ヨリ
 天候不良ノ爲先發ノ一行二十一日出發不能トナレリ(午前九時)
 大臣、奉天、長春、鄭家屯へ轉電セリ

記録
 五月二十一日後發
 長岡總領事代理

S 1.1.1.0 - 33

1925

0558

外務省

イニ詳述セリ
(轉電先脱?)

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1924

0557

寫送先

大臣 次官 電信課長 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 文書 會計

(分類 A.1.1.0.2/12-2)

昭和7 一二二三四 暗 長春 五月廿一日前發 亞
 本省 五月廿一日後着

芳澤外務大臣 田代領事

第二四七號

占山トノ會見問題ニ關シ十九日謝介石ハ「リットン」ニ對シ長文ノ警告電報ヲ發シタルカ右電報ノ内容ハ二十日外交部ヨリ發表セラレ二十一日當地日滿各新聞ニ掲載セラレタリ

御參考迄

S 1.1.1.0 - 33 1927 0560

外務省

寫送先

大臣 次官 電信課長 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 文書 會計

(分類 A.1.1.0.2/12-2)

昭和7 一二二五八 略 哈爾濱 五月廿一日後發 亞
 本省 五月廿一日後着

芳澤外務大臣 長岡總領事代理

第五六八號

本官發齊々哈爾宛電報

第一〇六號

鹽崎ヨリ

其後天候見直シタルヲ以テ十時五十五分出發セリ

奉天ヨリ鄭家屯へ轉電アリタシ

大臣奉天長春鄭家屯へ轉電セリ

S 1.1.1.0 - 33 1926 0559

外務省



参同文
昭和七、五、二一

陸軍次官宛

関東軍参謀長

五、二〇後
八、五、二〇著

関参三〇六

聯盟調査員中飛行機ニテ齊々
哈系行ノ者ハ日程ヲ変更シニ十二
日午前行ハ市ヲ出奔スルヲトセリ
而シテ其ノ人名ハ「ハイアム」
「コッ」
「千」
「アスタ」
「モス」
ノ五名ニシテ日本側
ハ塩崎、林、出、澄、田、中、依、藤、本、少、佐
及軍囑託一名ナリ
其他ノ主力ハ
二十一日午後十時汽車ニテ奉天著ノ予定

行初

大

S 1.1.1.0 - 33

1928

0561

電 信 案

外 務 省

テハ委員一行東京再來ノ際本大臣ニ對シテモ質問アルヘシト存シ應
答ニ付テモ御答ハハズル所ナリト答テタリ
酬振研究中ナリ
此等ノ點ニ對シテ本大臣ニ對シテモ質問アルヘシト存シ應
答ニ付テモ御答ハハズル所ナリト答テタリ
如キコトナキ様相當ニ付テ付テ置カレ度

吉田大使來信機密支調參與第六五號ノ質問書中ニハ全般的ノ問題ニ

關スル我方ノ意見及態度等ニ付尋ネ居ル點少ナカラサル處(右ニ付

S 1.1.1.0-33 1930 0563

電 信 案

外 務 省

往電第七三號ニ關シ

吉田大使來信機密支調參與第六五號ノ質問書中ニハ全般的ノ問題ニ

關スル我方ノ意見及態度等ニ付尋ネ居ル點少ナカラサル處(右ニ付

電送第 10561 號

昭和七年五月二十一日午後六時〇分發

主 任 芳澤大臣

在奉天 森島總領事代理

發 芳澤大臣

第一八一號

森島總領事代理ノ件
阿南直太郎ノ應酬報告

昭和七年五月廿一日起草

S 1.1.1.0-33 1929 0562



REEL No. A-0177

アジア歴史資料センター

寫送先

會文人文情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

次官 大臣

電信課長

分類A.1.1.0.21-12-2

昭和7 一二三一四 暗 奉天 五月廿二日後發 亞、條
 本省 五月廿三日前着 森島總領事代理

芳澤外務大臣
 第八三三號
 吉田ヨリ

第一五九號

廿二日午後調査委員總領事館ニ於テ森島總領事代理ヨリ左ノ諸事項ノ説明ヲ聽取セリ

一、滿洲ニ對スル日本ノ立場

二、東北四省ニ於テ懸案解決ノ爲地方的交渉ヲ必要トスル理由

三、右四省ノ獨立性

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1932

0565

寫送先

會文人文情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

次官 大臣

電信課長

分類A.1.1.0.21-12-2

昭和7 一二二七四 平 奉天 五月二十二日前發 亞
 本者 五月二十二日前着 森島總領事代理

芳澤外務大臣
 第八三一號
 吉田ヨリ

第一五八號

齊々哈爾行ヲ除ク外調査員一行二十一日着奉セリ

公使、北平へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1931

0564

記録簿
滿洲日支衝突關係件
後將送還關係件
森島總領事代理

記録簿

寫送先

電信課長
大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
文書
會計

分類(1.1.1.0.21-12-2)

老
終
内

昭和7 一二三一三 暗 奉天
本省 五月廿二日後發
五月廿三日前着 亞、條

芳澤外務大臣
第八三四號
吉田ヨリ
第一六〇號

委員一行ノ今後ノ日程大體左ノ通

五月廿五日迄當地滞在、同日夜行ニテ大連ニ向ヒ同地ニテ廿六日「
リットン」ハ「ランブソン」ト會見、廿七日旅順ニテ關東長官ト會
見、廿八日滿鐵總裁ト會見、三十日朝大連發鞍山視察ノ上奉天着六
月一日撫順視察、二日本庄司令官ト會見、四日又ハ五日奉天發陸路

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1934

0567

記録簿

四鐵道問題ノ概要及交渉ノ經過
支、北平、長春へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1933 0566

寫送先

大臣 電信課長
次官 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 文事 會計

(分類A.1.1.0.21-12-2)

昭和7 一二三一 二 暗 奉天 廿二日後發
 本省 五月廿三日前着 亞、條、人
 芳澤外務大臣 森島總領事代理
 第八三五號
 吉田ヨリ第一六一號
 伊藤ヨリ

從來調査團ハ我方領事館軍部其他各方面ヨリ數多資料ノ供給ヲ求メ
 居ル處各方面トモ之等資料ノ翻譯ニ當ラシメ得ヘキ者尠ナキ爲提出
 常ニ遅延シ居ル實狀ナリ然ルニ調査團ハ來月五日頃北平ニ向フ豫定
 ナル處同團ハ同地ニ於テ書類ノ整理ト共ニ報告作成ノ協議ヲ爲スヘ
 キハ變ニモ電報ノ通ナリ右ニ當リテ我方トシテハ支那側ノ資料ヨリ

記録係

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1936

0569 記

途中錦州視察ノ上北平ニ向ヒ約二週間滞在ノ上朝鮮經由日本ニ向フ
 支、北平、遼陽、天津、長春、聯盟へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1935

0568

寫送先

會文人文情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

大臣
次官

電信課長

(分類 A. 1. 1. 1. 0. 2 (12-2))

昭和7 一二三〇三 略 哈爾賓 二十二日後發 亞、條
 本省 五月二十二日後着

芳澤外務大臣
 第五七〇號
 本官發齊齊哈爾宛電報
 第一〇九號
 鹽崎ヨリ

「ハイアム」等一行天候ノ都合ニ依リ豫定ノ時刻ニ出發スルコトヲ
 得ス午後二時發ノコトナリ
 尙一行ハ明二十三日モ貴地滞在ノ筈
 奉天ヨリ鄭家屯へ轉電アリタシ
 大臣、奉天、長春へ轉電セリ

外務省

§ 1.1.1.0 - 33 1938

0571

ノ影響ヲ受ケサラシムル爲ニモ資料ヲ迅速且充分ニ提供スルハ一層
 必要ト思考セラルル處當方ニ於テハ「ペバン」ヲシテ翻譯文ノ修正
 ヲ爲サシメ得ル關係モアルニ付佛語翻譯者三人（本省ニテ曩ニ調査
 團關係ノ資料翻譯ニ當ラシメラレタル者アリシト存ス）及「タイピ
 スト」二人此ノ際至急當地ニ出張セシメラルル事頗ル適切ト存セラ
 ル
 右ハ小官ヨリ申上クヘキ筋ニ非サルヤモ知レサルモ事小ニ似テ重要
 ニ付敢テ電報ス

外務省

§ 1.1.1.0 - 33 1937

0570

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人文

人文

會計

會社

寫送先

(分類A.1.1.0.21-12-2.)

昭和7

一二三七四

暗

奉天

本省

五月二十四日前着

亞

芳澤外務大臣

第八三六號

吉田ヨリ

第一六二號

森島總領事代理

貴電第一五號接受前蘇聯邦査證拒絕ノ爲馬ヘ調査委員派出沙汰止ミ
トナリシニ付右貴電(一)ノ次第申入レハ次ノ機會ヲ俟ツコト然ルヘシ
ト認メ見合セ置キシニ二十三日「リ」ヨリ問合セアリ本使ハ事件終
了セシ筈ナリト云ヒシニ「リ」ハ其ノ通ナルモ日本政府ノ態度ヲ知
リ度シト云ヒシヲ以テ本使ハ右日本政府ノ干與スル處ニ非ラサルカ

記録
滿洲日支衝突事變關係一件
五月二十四日
森島總領事代理

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1939

0572

如キ意味ノ電報ニ接セシモ明瞭ニ了解セサリシ旨答ヘタルニ「リ」
ハ委員等切ニ回答ノ有無ヲ問ヒ居レルニ付東京ノ意見ヲ知り度シト
述ヘタリ事件終リシニ拘ラス尙日本政府ノ態度ヲ知ラント欲スルハ
最終報告書作成ノ必要上ナルヘク日滿兩國ノ連繫密接ナル證據トセ
ラレ我ニ不利ナル場合アルヲ慮ル就テハ
(イ)前述本使挨拶ノ趣旨ニテカ又ハ(ロ)終了ノ事件ニ付テハ政府ハ何等
言明ヲ欲セストカ挨拶スル方適當ト認ム往電第一四八號ニ對シ重ネ
テ何分ノ御回示ヲ請フ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1940

0573

寫送先

大臣 次官 電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

(分類 A.1.1.0.2/12-2)

昭和7 一二三二〇 暗 齊齊哈爾 二十三日午前發 亞、條
本 省 五月二十三日後着
芳澤外務大臣 清水領事
第八〇號
鹽崎ヨリ
「ハイアム」等ノ一行二十二日午後四時半當地ニ到着セリ
本日午後清水領事ト會見二十三日天野旅團長、程省長等ト會見ノ上
二十四日午前洮昂線ニ依リ奉天ニ向フ事ニ打合セタリ
長春ヨリ奉天、鄭家屯へ轉電アリタシ
長春、哈爾濱へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1942

0575 (記)

寫送先

大臣 次官 電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

(分類 A.1.1.0.2/12-2)

昭和7 一二三四二 暗 長春 廿三日後發 亞、條
本省 五月廿三日後着
芳澤外務大臣 田代領事
第二三號
吉田大使へ
奉天發大臣宛電報第八三四號末段ニ關シ
委員一行北平ヨリ朝鮮經由日本ニ向フ道筋ハ陸路奉天經由ノ豫定ナ
リヤ又右旅行ニ願維鈞同行スルヤ其レトナク御確メノ上御回電ヲ請
フ尙滿洲國側ハ一行ノ今後ニ於ケル同國內旅行ニ付旅程ヲ豫メ通知
シ來ラサレハ保護並ニ便宜供與ヲ爲ササル意向ヲ有シ居ルヤニ認メ
ラルルニ付右御含ミノ上然ルヘク御措置相成度シ
大臣、公使、北平へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1941

0574 (記)

電 信 案	定 ム ル 爲 メ ニ ハ 左 記 ノ 諸 點 ヲ 考 慮 ス ル ヲ 要 ス ヘ シ ト シ テ 諸 點 ヲ	モ 自 分 ノ 研 究 ニ 依 レ ハ 滿 洲 ノ 南 半 分 及 內 蒙 古 ノ 東 半 分 ノ 範 圍 ヲ	<i>official interpretation</i>	ト ナ キ 次 第 ニ テ 自 分 ノ 承 知 ス ル 限 リ	限 界 ヲ 定 メ タ ル コ ト ナ ク 其 後 モ 右 限 界 ニ 付 別 段 問 題 ヲ 生 シ タ ル コ	四 年 日 支 交 渉 當 時 ニ 於 テ モ 此 等 地 域 ノ 範 圍 ニ 關 シ 日 支 間 ニ 一 定 ノ	ニ シ テ 滿 洲 ノ 南 半 分 乃 至 內 蒙 古 ノ 東 半 分 ト 云 フ	貴 電 第 七 八 二 號 ニ 關 シ	暗 示 第 二 八 五 號	電 信 案	南 滿 洲 ト 云 フ モ 東 部 內 蒙 古 ト 云 フ モ 共 ニ 素 漠 然 タ ル 地 理 的 名 稱	一 質 問 事 項 五 ノ (一) 及 (二) ニ 關 シ テ ハ 北 滿 洲 地 理 的 名 稱 ノ 存 在 ハ 否 ト 考 へ ら れ し ム	Reference 對 外 局 係 事 件 費 支 辦	亞 細 亞 局 第 課	商 務 博 士	07
-------------	--	--	--------------------------------	--	---	---	---	--	---------------------------------	-------------	--	---	--	----------------------------	------------------	----

S 1.1.1.0 - 33

1944

0577

電 信 案	定 ム ル 爲 メ ニ ハ 左 記 ノ 諸 點 ヲ 考 慮 ス ル ヲ 要 ス ヘ シ ト シ テ 諸 點 ヲ	モ 自 分 ノ 研 究 ニ 依 レ ハ 滿 洲 ノ 南 半 分 及 內 蒙 古 ノ 東 半 分 ノ 範 圍 ヲ	<i>official interpretation</i>	ト ナ キ 次 第 ニ テ 自 分 ノ 承 知 ス ル 限 リ	限 界 ヲ 定 メ タ ル コ ト ナ ク 其 後 モ 右 限 界 ニ 付 別 段 問 題 ヲ 生 シ タ ル コ	四 年 日 支 交 渉 當 時 ニ 於 テ モ 此 等 地 域 ノ 範 圍 ニ 關 シ 日 支 間 ニ 一 定 ノ	ニ シ テ 滿 洲 ノ 南 半 分 乃 至 內 蒙 古 ノ 東 半 分 ト 云 フ	貴 電 第 七 八 二 號 ニ 關 シ	暗 示 第 二 八 五 號	電 信 案	南 滿 洲 ト 云 フ モ 東 部 內 蒙 古 ト 云 フ モ 共 ニ 素 漠 然 タ ル 地 理 的 名 稱	一 質 問 事 項 五 ノ (一) 及 (二) ニ 關 シ テ ハ 北 滿 洲 地 理 的 名 稱 ノ 存 在 ハ 否 ト 考 へ ら れ し ム	Reference 對 外 局 係 事 件 費 支 辦	亞 細 亞 局 第 課	商 務 博 士	07
-------------	--	--	--------------------------------	--	---	---	---	--	---------------------------------	-------------	--	---	--	----------------------------	------------------	----

S 1.1.1.0 - 33

1943

0576

電信案	外務省	(1) 万里ノ長城以北ニシテ滿洲ニ接壤セル地域ト解スルヲ 外務省 妥當
		(2) 東部内蒙古
		ヲ「南滿洲支線」ト稱シ居レリ
		(4) 一八九八年東清鐵道會社續約第一條ニ哈爾濱ヨリ南下スル支線
		ヲ「牡丹江支線」ト稱シ居レリ
		(3) 清朝初期ニハ現在ノ黑龍江省居住ノ滿人ヲ伊徹滿(新滿)ト稱シ奉天吉林省居住ノ滿人ヲ佛滿(老滿ノ意)ト稱シタル事實アリ
		(2) 清朝初期ニハ現在ノ黑龍江省居住ノ滿人ヲ伊徹滿(新滿)ト稱シ奉天吉林省居住ノ滿人ヲ佛滿(老滿ノ意)ト稱シタル事實アリ

S 1.1.1.0 - 33 1946 0579

電信案	外務省	可然説明スルコト
		(1) 南滿洲
		(1) 滿洲南北兩端ノ中央ハ北緯四六度六分ノ線ナリ
		(2) 松花江本流及嫩江 南 ハ滿洲ヲ南 北 ニ分ツ重要ナル地理的根
		據タルヘシ(右地域ハ行政的ニハ吉林、奉天ノ二省ニ該當スル
		處吉林省牡丹江沿岸方面ハ夙ニ朝鮮民族ノ定住セル所ニシテ大
		正四年日支條約締結當時之ヲ無視シタルモノト見ルコトヲ得ス

S 1.1.1.0 - 33 1945 0578

電 信 案

外 務 省

洮南(一) 大正四年ノ條約ニ所謂南滿洲ニ屬スルモノト解スルコ
 (如斯滿洲路權ノ権力下ニ編入セラルル地方ハ
 居住スル所トナリ夙ニ南滿洲ノ一部トナレル地方アル處(例へハ
 遼北ニ伴ヒ考テ東三省ニ編入セラルル)

ニ質問事項五ノ(三)及(四)ニ關シ當方氣付ノ點左ノ通

(一)昔時内蒙古ニ屬シタルモ清朝末期以來開墾政策ノ緒未遑ハ
 對スル壓迫カ北滿ヨリモ南滿ニ於テ特ニ甚シカリシコトハ注意ヲ
 要ス)

(尙本件ニ關聯シ東三省官憲ノ本邦人居住營業妨碍殊ニ朝鮮人ニ

0581

S 1.1.1.0 - 33 1948

電 信 案

外 務 省

カトス

(2)清朝時代ニ所謂内屬蒙古ハ(一)内蒙東部四盟(二)察哈爾部(三)歸化土
 默特部及(四)内蒙西部二盟ニ分タレタルカ問題ハ右(一)(二)ヲ東西何
 レニ屬セシムヘキヤニ存スヘク少クトモ内蒙東部四盟即チ哲里
 木、照烏達、卓索圖、錫林郭勒ノ四盟カ『東部内蒙古』ニ屬ス
 ルコトハ疑ナカルヘシ(從テ現在ノ熱河省ノミナラス察哈爾省
 ノ一部ヲ含ムモノナリ察哈爾省ノ東半部ハ錫林郭勒盟ニ屬ス)

Chao-ude Chaotai Shinghal
 Chakhar Huludot
 Chaim

0580

S 1.1.1.0 - 33 1947

電信案

外務省

迄モ無シ(北三姓及東支東部及南部線地方カ南滿洲ニ屬スト解ス
ルノ妥當ナルコトハ前述ノ通りナリ)

8 1.1.1.0 - 33

1950

0583

電信案

外務省

ト至當ナルヘク質問書五ノ(三)即「東部内蒙古ニ於テ日本人ハ居住
營業權アリヤ」ニ對スル應酬ニ當テハ此ノ點ヲ注意セラルルコト
ト致度(但レ以上ノ(三)ノ(イ)ニ對シテハ)
(四)質問書五ノ(四)ハ東支鐵道南部支線等ニ於ケル支那官憲ノ邦人借
家妨碍事件ニ言及シ居ル處之等借家妨碍ハ我滿鐵附屬地ト同様一
般外國人ノ居住ヲ認メラレアル東支鐵道附屬地ニ於テ行ハレタル
モノナリ尙三姓ハ開港場ナルヲ以テ本邦人居住ノ權アルコト言フ
Son-Hsing

8 1.1.1.0 - 33

1949

0582

秘

本件ト滿洲ニ於ケル日露勢力範圍トノ關係ニ付テ

本電所載南滿洲及東部内蒙古ニ關スル解釋ハ昭和十一年第一回及第三回日露協約附屬秘密協定ニテ劃定セル日露勢力範圍（當時英佛米等ニ極秘トシテ内報セリ）ノ限界ヲ幾分食ミ出シ居ル處右ハ左記諸點ニ願ミ差支ナカルヘシト認メラル

(イ) 日露間ノ約定ヲ以テ日支間ノ約定ヲ解釋スヘキニ非ス又大正四年ノ日支交渉ニ當リ前記日露間ノ勢力範圍ニ關スル約定ヲ基礎トセルコトナシ

(ロ) 大正二月十五日在本邦露國大使ト加藤外務大臣ト會談ノ際同大使ハ日本ノ對支要求中ニハ政治財政軍事顧問僱聘ノ條項アル處露國ノ勢力範圍ニ該條項ノ適用及ハサル様致シ度ト述ヘタルニ對シ

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1951 0584

其ノ際同大使ハ南滿ニ於ケル居住營業權ニハ言及セス（加藤大臣ハ今回ノ要求ハ支那ニ對スルモノナレハ右要求カ全部承認セラレタル曉ニハ其ノ點ヲ不都合ナキ様取計フコトハ異存ナキニ付對支交渉結着後必要アラハ御相談致度ト應酬セル事實アリ

(ニ) 日露秘密協定ノ内報ヲ受ケタル英米佛等カ同協定ヲ引用シテ大正四年日支條約ニ關スル我方ノ解釋ニ對シ云々スヘキ地位ニ在ラサルコト勿論ナリ

外務省

7.2 S 1.1.1.0 - 33 1952 0585

諸書ニ現ハレタル南滿、北滿ノ意義

一「蒙古地誌」舊露國大藏省編纂

二「滿蒙通志」東亞日文會發行

三「東蒙古」關東都督府陸軍部編

四「滿蒙要覽」滿鐵

五「滿洲地誌研究」田中秀作

六「日支新交渉ニヨル帝國ノ利權」松本忠雄

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1953 0586

「蒙古地誌」ニヨル

蒙古トハ支那本部ノ北、北緯三十七度ヨリ五十三度ニ互リ、東經八十五度ヨリ百二十七度ニ互ル廣漠タル地域ヲ謂フ、

東ハ東三省ニ境シ、西ハ甘肅省及伊犁ニ連リ南ハ萬里ノ長城ト柳條邊墻ヲ以テ支那本部及東三省ト接壤、北ハ阿爾泰山脈及黑龍江流域ヲ以テ露國細比利亞ト疆界ヲ分ツ

戈壁沙漠ハ興安嶺麓ヨリ西方伊犁新疆ニ向ヒ向テ内外蒙古ヲ分ツ

戈壁沙漠西北部ヲ外蒙古、東南部ヲ内蒙古ト謂フ

内蒙古ノ位置 西北戈壁沙漠ヲ隔テテ外蒙古ニ連リ、東北、呼倫貝爾及黑龍江ニ接壤シ、東南柳邊墻ヲ限リ奉天吉林二省ニ界ス南ハ萬里ノ長城ニ連ル、其ノ東域ハ北緯三十七度ヨリ四十七度、東經百零四度ヨリ百二十六度ニ互ル

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1954 0587

内蒙古

行政上東部ニ位セル部落ヲ東四盟、西部ニ位セルヲ西二盟ト稱ス、此ノ六盟ノ外、察哈爾部、歸化城土默特部アリ、清朝ハ之ヲ内屬蒙古ト稱セリ

其ノ他、錫呼圖庫倫喇嘛游牧地ハ東四盟ノ境内ニ介在ス

伊克明安旗ハ黑龍省内ニアリ

呼倫貝爾ハ内蒙古ニ位置シ、外蒙古ニ連ル

熱河蒙古地方ト稱スルハ前清康熙中、卓索圖盟ノ地ヲ割キテ滿蒙漢軍八旗ノ駐防地ニ編入セラレタル地方ヲイフ。木蘭圍場地方ハ亦此内ニ含マル

以上ヲ表ニスレハ左表ノ如シ

は(七)

S 1.1.1.0 - 33 1955

0588

外務省

内蒙古

行政上區劃ニ依ル區分

○東四盟

哲里木盟、卓索圖盟

昭烏達盟、錫林郭勒盟

錫呼圖庫倫喇嘛游牧特地

○西二盟

烏蘭察布盟、伊克昭盟

○内屬蒙古

歸化城土默特

察哈爾八旗

○呼倫貝爾

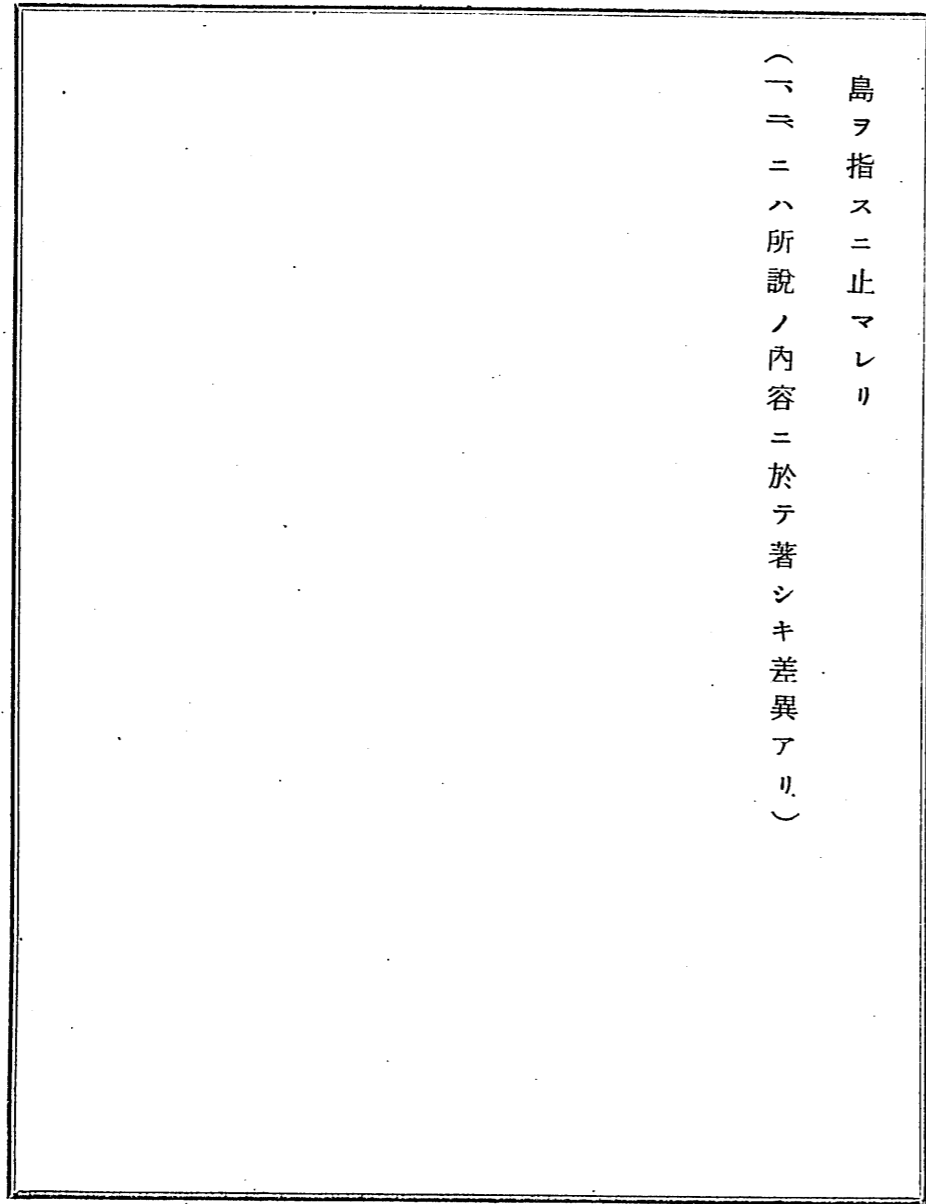
は(六)

S 1.1.1.0 - 33 1956

0589

外務省

外務省



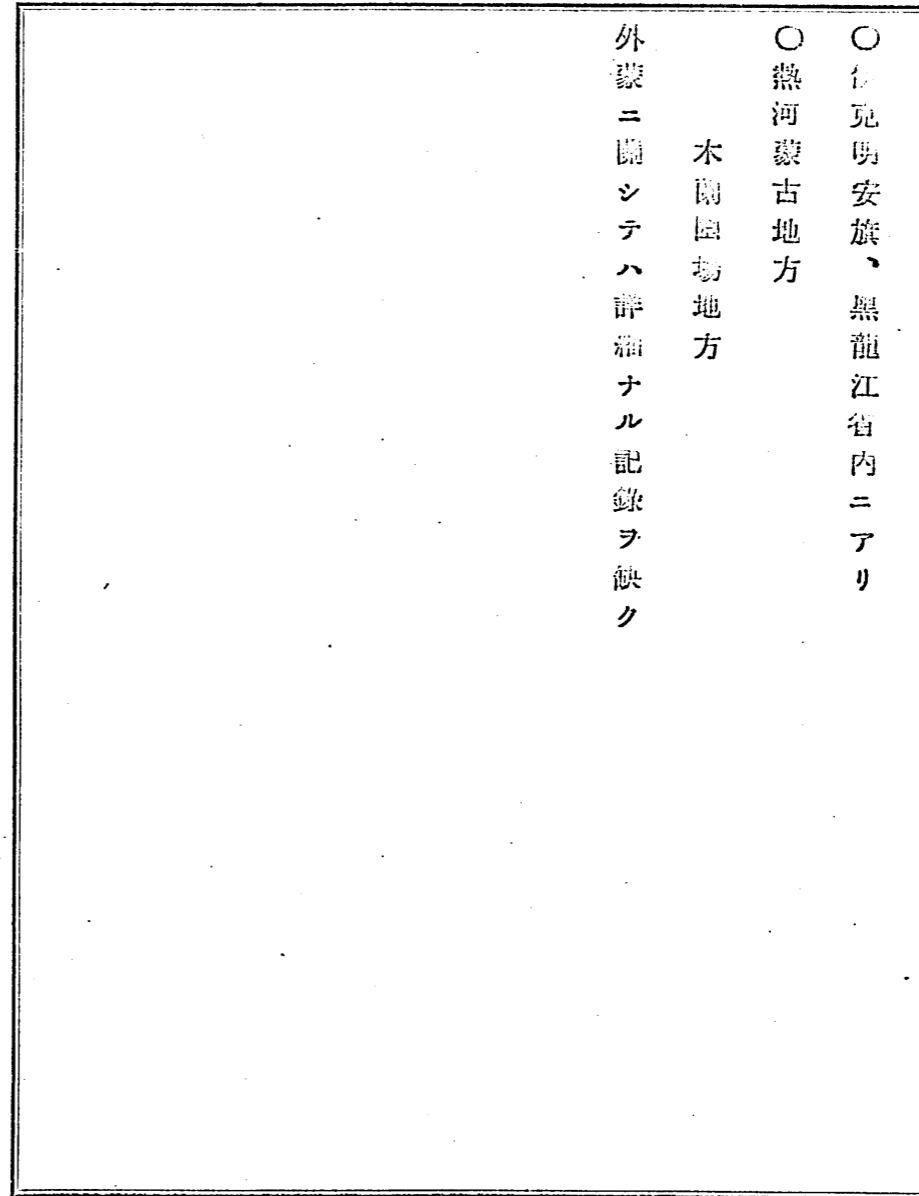
島ヲ指スニ止マレリ
(下ニハ所説ノ内容ニ於テ著シキ差異アリ)

は(ヤ)

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1958

0591

外務省



○伊克明安旗、黒龍江省内ニアリ
○熱河蒙古地方
木蘭岡地方
外蒙ニ關シテハ詳細ナル記録ヲ缺ク

は(ヤ)

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1957

0590

REEL No. A-0177

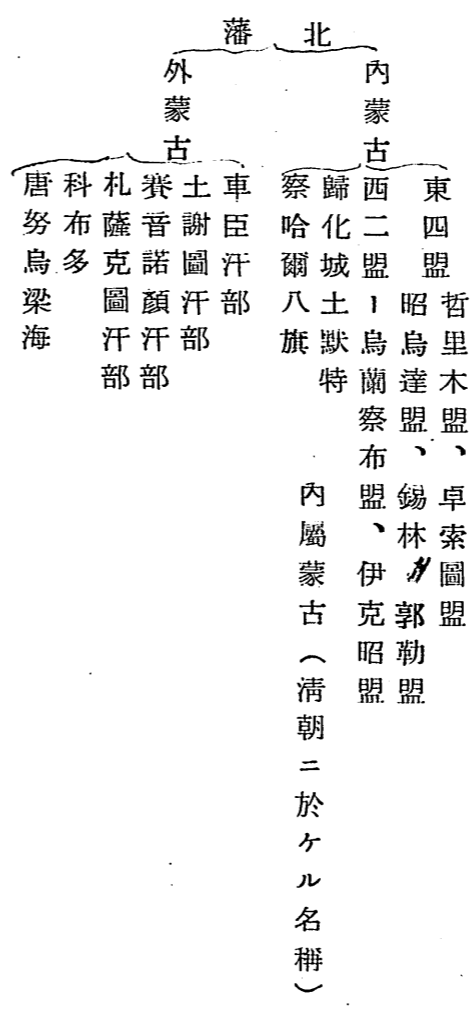
0328

アジア歴史資料センター

關東軍都督府陸軍部編纂「東蒙古」ニ依ル。

蒙古ノ定義

蒙古トハ支那ノ北面ニ位シ、清朝時代ノ北藩部ト稱セル地域ノ概稱ナリ、戈壁ノ沙漠ニヨリ大別セラレ即チ漠南ニアルヲ内蒙古、漠北ニアルヲ外蒙古トイフ、外蒙古ノ西北部ニアル唐努、烏梁海及科布多及西南部ノ阿拉善額魯特ノ地モ亦一般ニ蒙古ト稱セラル



外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1959 0592

一 東蒙古ノ位置面積

東蒙古トハ内蒙古及外蒙古中車臣汗、土謝特汗ノ二部ヲ指シタルモノニシテ支那本部ノ東北滿洲ノ西部ニ位置シ北緯四十一度ノ長城外面ヨリ同五十度十分ノ露支國境ノ買賣城ニ至ルノ東經百〇二度、抗愛山ノ分水岑ヨリ同百二十六度ノ松花江流域ニ達ス其面積約七萬五千方里アリ

ニ 疆界

北ハ肯特山ヲ以テ露領西比利亞ニ接シ南ハ長城ヲ限リ支那本部ニ界シ東ハ松花江及柳條邊牆ヲ以テ滿洲ト境ヲ分チ西ハ張家口外ヨリ阿爾泰軍臺路ヲ界線トシテ外蒙古、喀爾喀部ヲ斜ニ横斷スル一線ヲ以テ分界トス

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1960 0593

因ニ東蒙古ノ名稱ハ地理的、政治的固有ノ名稱アルニ非ス、單ニ記述ノ便宜上名ケシモノナルヲ以テ隨テ西方蒙古ニ對シ確然タル分界ヲ附シ難シ

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1961 0594

(滿鐵調査課發行「滿蒙要覽」ニ依ル)
A、南北滿洲ノ區域

其ノ所說大体田中秀著作「滿洲地誌」ト略同シ

南滿北滿ト稱スルモ其ノ範圍ニ關シ確然タルモノ有ルナシ、解釋又區々タリ

ハ省ノ境界ニ依リ區分セントスルモノ

- (イ) 北滿 黑龍江省
- 南滿 吉林、遼寧省
- (ロ) 北滿 吉林、黑龍江省
- 南滿 遼寧省

ニ地勢ヲ標準トシテ區分セントスルモノ

北流スル松花江、南流スル遼河、鴨綠江ノ各流域ヲ以テ南北滿

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1962 0595

舊日露ノ勢力圏ニ依ル區分

巷間傳フル所ニヨレハ一九〇五年日露間ニ於テ勢力圏ニ關スル密約ヲ結ンテキタトノコトテアルカ之ニヨレハ珲春ヨリ鏡泊湖ヲ經テ長棚ト松花江ノ會合點ヲ通シ嫩江松花江ノ合流點ヲスキ洮兒河ヨリ索岳爾濟山ニ及フ一線ヲ以テ南北ニ二分スルモノ

B、(蒙古ノ區劃ニ關シテハ本誌ハ別段確然タル見解ナシ、通説ト同シク漠然タルモノナリ)

7.4

S 1.1.1.0-33 1964

0597

洲ヲ區分セントスルモノ

其ノ分水嶺ハ公主嶺附近トナル

鐵道ノ勢力圏ニヨリテ區分セントスルモノ

東支鐵道及南滿、吉長、四洮各鐵道ノ背后地ヲ以テ各々南北滿洲ニ區分セントスルモノ

換言セハ日露兩國ノ勢力圏ヲ以テ兩者ノ區別トナサントスル說今日ノ如ク露國內ノ勢力驅逐セラレタルトキニ於テハ其ノ適否如何ハ問題ナリ

貿易系統ニヨル區分

大連、營口、安東ノ背后地ヲ南滿トシ、ボクラニ、チヤ、滿洲里其ノ他北路領貿易市場ノ背后地ヲ以テ北滿トスルモノ

7.4

S 1.1.1.0-33 1963

0596

「滿洲地誌研究」

滿洲

北端 北緯 五十三度三分 (黑龍江沿岸漠河地方)

南端 三六四三 (旅順老鐵山高角)

東端 東經 一三三二〇 (黑龍江、烏蘇里合流點附近)

西端 凡ソ、一一六 (呼倫地ノ西方)

滿洲ノ範圍ハ中華民國行政區劃トシテハ舊東北三省ノ地域ナリ

而シテ此ノ滿洲ト其ノ南西方ニ接壤スル東部內蒙古トヲ合シテ滿蒙

トイフコトアルカ此ノ場合ノ蒙トイフハ通常今ノ熱河省ヲ指ス即チ

東北四省ヲ云フ

又東部蒙古トシテ熱河省ノ外ニ其ノ北西ニ接スル察哈爾ノ東四旗ヲ

外務省

S 1.1.1.0-33 1965

0598

加ヘルコトモアル何レニセヨ滿洲ト東部內蒙古トノ限界ハ大体行政
區劃ノ遼寧省ト熱河省トノ境界ト一致スル併シ今ノ遼寧省ノ北西部
ハ吉林省ノ南西ノ一部ト共ニ清初マテハ蒙古ノ中ニ入ツテ居タノカ
漸次ニ開放セラレテ縣治トナツタノテ滿洲ニ編入セラレテヨリ未タ
日淺シ隨テ通俗的ニ是等ノ地方中特ニ西ニ偏シテ居ル部ハ依然蒙古
トヨハレルコトアリ

南滿洲北滿洲ノ區劃

イ、康熙時代ニ大体今ノ遼寧吉林二省ヲ老滿ト呼ヒ黑龍江省一帶ヲ

新滿ト稱ヘタリ

ロ、文獻ニ現ハレタ最近ノモノハ一八九七年露西亞大藏省ノ滿洲地

誌ヲ編纂セル際水系及南北斜面ニヨリ滿洲ヲ南北ニ二分セリ (滿

外務省

S 1.1.1.0-33 1966

0599

蒙地誌五〇頁参照)

ハ、又一八九八年露支兩國間ニ締結ノ東清鐵道會社設立ニ關スル條約第一條ニ「本契約ニ議定セル東清鐵道ノ支線ハ旅順大連港灣海岸ニ達スヘキモノナルカ故ニ名ケテ東清鐵道南滿洲支線トス」トノ意味ヲ記載シ南滿洲ナル名稱ヲ使用セルカ之ニ對シ北ヲ北滿洲ト呼フニ至リタルモノト思ハル

南北滿洲區分ノ標準ハ確タルモノナシ

普通ニ行ハルルモノニ左ノ數説アリ

一省ニヨリテ區分スルモノ

(滿蒙要覽ノ當該項目中ノ一ニ同シ)

ニ東支、南滿兩鐵道ノ交通圈ニヨリテ分ツモノ

外 務 省

0600

S 1.1.1.0 - 33 1967

此ノ二大鐵道ノ勢力ノ及フ后背地ヲ以テ南北ニ二分スルモノ大体長春邊カ其ノ境目ニナル

ニ舊日露ノ勢力圈ニヨリテ分ツモノ

地人文種々ノ點ヲ考慮シ一九〇九年頃日露兩國間ノ諒解(?)

等ニヨリ東ハ朝鮮北境ヨリ畢爾騰湖ノ南ヲ^馬キ陶賴昭ノ南東支鐵

道松花江嫩江ノ會點ヲ連タル一線ニヨルモノ

四 南北ノ緯度ノ中央線ニ依ルモノ

滿洲ノ北ノ極ハ北緯五三度三〇分南ノ極ハ北緯三八度四三分テアルカラ其ノ中央線ハ北緯四六度六分即チ東ハ吉林省依蘭道ト露領沿海州トノ境界虎林ヨリ同省綏蘭道ト濱江道トノ界ヲ^馬キ哈爾濱及濟南ノ北ヲ通スル線ヲ以テ南北ニ二分セントスルモノ

外 務 省

0601

S 1.1.1.0 - 33 1968

REEL No. A-0177

0333

アジア歴史資料センター

其南北滿洲ノ分水界ニ依ルモノ
純地形ヲ基トスルモノテ所謂黑遼分水嶺カ其ノ主タル限界線トナ
リ滿鐵線モ長春公主嶺トノ中間ニテ分タレ大体之ヨリ東西ニ引イ
タ一線ニヨリ區分スルモノ
何レモ漠然トシ行政區劃ノ如ク判然ト劃定スルヲ得ス最合理的且廣
ク用ヒラレ居ルハ二及五ナリ

は(七)

外務省

7.4

§ 1.1.1.0 - 33

1969

0602

東部内蒙古ノ範圍

今回日支兩國間ニ締結セラレタル南滿洲及東部内蒙古ニ關スル條約
ニ於テハ單ニ東部内蒙古ト記シテ東部内蒙古ノ範圍ニツイテハ遂ニ
規定スル處ナシ是レ蓋シ東部内蒙古ナル名稱ハ夫レ自體ニヨリテ既
ニ一定區域ヲ指示スルモノアルヲ以テ更ニ詳細ノ取極ヲナスノ要ナ
カリシカ爲ナルヘシ
元來蒙古ノ地ハ内外兩蒙古ニ分タレ内蒙古ハ更ニ哲里木、照烏達、
錫林郭爾、卓索圖、烏蘭察布及伊克昭ノ六盟ニ區劃セラレ而シテ東
部内蒙古トハ此内ノ前四盟ノ大部分ヲ指シテ稱スルモノニ係ル斯ク
前記四盟ノ大部分ヲ以テ東部内蒙古ト稱スル結果ハ勢此ニ其區域ハ
判明ヲ缺クニ至ルモノニシテコレ畢竟清朝時代ヨリ是等蒙古中ノ滿

は(七)

外務省

7.4

§ 1.1.1.0 - 33

1970

0603

洲及直隸ニ接近セル地方ニ順次縣治ヲ置キ之レヲ隣接行省ノ中ニ編入セル結果ニシテ之レカ爲ニ今ヤ東部內蒙古ナルモノノ區劃ハ甚タ紛淆ヲ極ムルニ至レリ即チ現ニ奉天省ニ編入セラレ其洮昌道ノ管轄ノ下ニアル洮南、昌圖、康平、鎮安等ノ諸縣、吉林省ノ吉長道管下ニアル長春ノ如キハ之ニシテ是等諸縣ハ元蒙古ノ一部ナリシカ漢人ノ移住スルモノ漸ク多ク斯クテ次第ニ開發セラレタリシカ爲ニ之ニ州縣ヲ置キ廳テ之ヲ隣接ノ行省内ニ編入シ今ヤ純然タル滿洲ノ一部トナレルナリ

之レト稍似テ然カモ全ク相異ナルモノアリ直隸省ニ隣接セル承德、灤平、朝陽、阜新、赤峰、開魯、林西等ノ所謂熱河道管轄ノ下ニ在ル諸縣之レニシテ是等ハ先ノ滿洲ニ編入セラレタル諸縣ト同一ノ事

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1971 0604

情ニヨリ縣治ヲ置カレタルモ支那政府ハ是等各縣ヲ以テ先ノモノト同一視セスシテ即チ之ヲ隣接行省中ニ編入セスシテ現ニ特別行政區域トシテ存置シタリ從テ是等各地ハ他ノ行省ト同シク縣治ヲ設ケタリト雖モ尙蒙古ノ區域ヲ脫セサルモノニシテ現ニ今回ノ日支交渉ニ際シテモ支那ハ五月一日我日置公使ニ交付シタル修正案中ニ於テ熱河道所轄區域内ノ東部內蒙古タルコトヲ明カニ示セリ抑モ此熱河道所轄區域内カ果シテ東部內蒙古ノ範圍ニ屬スヘキヤ否ヤニ付テハ多少議論ノ餘地アルモノナルモ既ニ支那自ラ之ヲ承認シタル以上ハ其所謂東部內蒙古ノ一部ナル事議論ヲ存セサルニ至レルモノナリ事情斯クノ如クナルヲ以テ內蒙古ノ東部四盟中奉天省洮昌道及吉林省吉長道ニ編入セラレタル各縣ハ之レヲ滿洲ト稱スル事當然ニシテ之レ

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1972 0605

ヲ除ク以外ノ全地域ヲ以テ東部内蒙古ト稱スヘキ也從テ此次ノ日支
條約中ノ東部内蒙古ナル語モ當然此地域ヲ指スモノト解スルヲ當レ
リトス

松本忠雄著「日支新交渉ニ依ル帝國ノ利權」

一四九頁―一五一頁

外務省

7.4

S 1.1.1.0 - 33

1973

0606

清朝初期ニ於ケル新滿、老滿ノ字句ニ關スル考證
(結論)

新滿、老滿ノ語ハ地方的ニ呼稱セラレシモノニシテ嚴格ナル區別ア
ルモノニ非レトモ左掲各書ヨリシテ、嫩江、松花江北岸ライフモノ
ト思考ス、即チ克山、呼蘭、索倫、達呼里ノ線ヲ以テ境界トスルモ
ノナリ

外務省

7.4

S 1.1.1.0 - 33

1974

0607

REEL No. A-0177

0335

アジア歴史資料センター

新滿、老滿ノ區別

一、滿蒙叢書第五、黑龍外記卷三、四九頁（嘉慶十五年編）

滿洲有伊徹佛之分、國語舊曰佛、新曰伊徹、轉而為伊齊、一氣、其初多吉林產也、又有所謂庫雅喇滿洲、瓜勒察滿洲者以地名、皆伊徹滿洲也、百餘年來分駐齊々哈爾黑龍江呼蘭、編其旗為八

二、盛京通誌卷二十一學校

康熙三十四年

黑龍江於墨爾根地兩翼、各設一學一處每翼設教官一員、將新滿洲西伯索倫達祐里等每佐領選俊秀幼童一名、教習書義、教官照京例稱為助教嗣是渾春齊々哈爾黑龍江等、並設官學教化所、與無遠弗屆焉

外務省

0608

1975

§ 1.1.1.0 - 33

0609

1976

§ 1.1.1.0 - 33

7.4

7.4

（西伯ハ現ノ伯都納附近ナリ、和田氏說）
（索倫ハ海拉爾南方ノ索倫ナリ）
三、伊徹（新）ナル語ノ出典
小方壺齊輿地叢鈔 柳邊紀略七、 三百五十七丁
東北邊部落現在貢寧古塔者八、每年自四月至六月、俱以次入貢自寧古塔、東北行四百餘里住虎爾哈河松花江、兩岸者、曰奴子^{奴子}耶勒日革依克勒、曰祐什喀里、此三喀喇役屬久、其頭目尚少主少年精悍者漸移家內地編甲入戶、或有為侍衛者、初服魚皮今則服○大清衣冠、名異齊滿洲、異齊者漢言新也（虎爾哈河ハ七虎力河、八虎力河ノコトナリ）
四、前掲叢書 黑龍江外記二十三、 四百一丁、

外務省

和田教授説

伊徹滿洲病亦請薩瑪跳神而請札林一人爲之相札林唱神歌者也

イ、佛滿洲 太祖奴爾哈赤カ四旗ヲ編成セシトキ其ノ編成當時ノ領土内ノ滿洲人ヲ佛滿洲人ト稱セリ

ロ、當時ノ滿洲人ノ勢力ハ牡丹江松花江流域ヲ中心トセルモノナリ

ハ、新滿ハ嫩江、松花江北流域ヲ稱スルモノナリ

外務省

7.4

S 1.1.1.0 - 33

1977

0610

REEL No. A-0177

0338

アジア歴史資料センター

陸軍次官宛
陸軍参謀長
關東軍参謀長

参同文
昭和七、五、二三

五、二〇後
五、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

陸軍次官宛
關東軍参謀長

關参ニ九八
聯盟調査員ニ隨行セル當軍藤本参謀

昨十九日午後哈爾濱附近並東支西部線ニ於ケル現在ノ情況ヲハリスニ説明セルニ調査團ハ事態ヲ重要視シタルモノ、如ク直ニ當時委員會ヲ開キ更ニ藤本少佐ヲ招致シ情況ヲ聴取セリ
藤本少佐ハ吉田大使ト同伴シ更ニ詳細

説明シ特ニ哈爾濱市日本軍ハ準備ノ少數ナルコト及安達溝溝間ニ於ケル李海青軍跳梁ノ情況ヲ述ヘ東支西部線ニ依ル齊々哈爾濱旅行ニ對スル安全保證ハ甚ク困難ナルヲ以テ是非飛行機ニテ行カレ度之ニ對シテハ軍ハ有ラユル便宜ヲ供與スヘキコト又四平街經由モ一案ナル旨ヲ述ヘタルリットン以下長ク了解シ調査團一部(旅客機一台ニ收容シ得ル人員)ヲ以テ二十一日午前飛行機ニ依リ有々哈爾濱へ其他ノ主打ハ同日朝汽車ヲ直路奉天ニ歸リ度旨申出其他ノ細部ハ一切日本参謀員側ニ任スル事トナレリ

S 1.1.1.0-33 1979 0612

S 1.1.1.0-33 1978

0611

寫

昭和七年五月二十三日
支那電

電信課長

電信信案

(原議用紙甲)ナ

主管主任 (起草昭和 年 月 日)

件聯盟調査員利導方ニ關スル件

名込綴

宛

在奉天 森島總領事代理

發 芳澤大臣

附

第二八六號

吉田大使へ第一七號

調査委員カ北滿ニ至ル迄ノ調査ヲ大体終了シ將ニ最終報告ノ起草ニ着手セムトスル此ノ際右ノ調査ニ基ク彼等ノ感想並將來ニ對スル解決腹案ニ付キ出來得ル限り詳細ニ探知シ右報告ノ内容ヲ我方ニ有利

電信案

外務省

3.2

S 1.1.1.0 - 33

1980

0613

(原議用紙乙)ナ

ニ導ク様各方面相呼應シテ萬全ノ策ヲ講スルノ要アルコト申ス迄モ

ナキ義ナルカ累次ノ貴電其ノ他ヲ綜合スルニ從來委員會側ニ於テ措

キ居レル解決案ハ(1)日支直接交渉ニ依リテ支那側ヲシテ日本ノ既得

權尊重ヲ約セシメ滿蒙ニ對スル支那ノ統治權ヲ回復セントスル案(2)

支那ノ宗主權ノ下ニ滿蒙ニ自治權ヲ認メムトスル案(3)國際的機關ニ

依リ滿蒙ヲ管理スル案(4)九國條約關係國等ノ會議ニ依リ滿蒙問題ヲ

決定セムトスル案等ニ存スル模様ナル處此ノ際問題ノ鎖雜紛糾セル

電信案

外務省

3.2

S 1.1.1.0 - 33

1981

0614

REEL No. A-0177

0340

アジア歴史資料センター

電 信 案

ト共ニ右我方ノ重キヲ置ク點ヲ機會アル毎ニ徹底セシメ其ノ結果隨
ノ際一層委員側トノ接觸ヲ密接ニシ此ノ上共先方ノ腹中ヲ探知スル
善導シテ將來ノ平和維持ニ資スル所以ニ非スト存ス就テハ貴官ハ此
釋トカ交渉ノ細目トカノ詮議立ニ没頭シ居ル嫌アル處右ハ新事態ヲ
サルヘカラサルニ拘ラス最近委員側ハ動モスレハ區々タル條約ノ解
大局的見地ニ立チ「ステーツマンシップ」ヲ發揮スル底ノモノナラ
通りニテ該問題ノ圓滿解決ニ資セムトスル委員會ノ調査報告ハ須ク
（原議用紙乙）ナ

3.2

S 1.1.1.0 - 33

1983

0616

電 信 案

ニ願ミ解決ニ關スル意見ヲ後日ニ遷延セムトスル案ナラハイザ知ラ
ス苟モ新國家ノ存在テウ現實ノ事實ヲ無視シテ滿蒙ノ統治ニ對シ依
然トシテ支那ノ主權カ及フカ又ハ新ニ國際委員會等第三者ノ力ノ及
フコトヲ認ムル案ハ帝國政府トシテ到底受諾シ難キ次第ナリ（五月
十日附奉天宛往信亞一機密合第四五六號ノ三月十二日閣議決定及奉
天宛往電第二七〇號本庄司令官等應酬振參照）將又滿洲問題カ歴史
的ニ政治的ニ其他各方面ヨリ見テ極メテ複雑多岐ナルコト御承知ノ
（原議用紙乙）ナ

3.2

S 1.1.1.0 - 33

1982

0615

寫送先

電信課長
大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人文
人文
會計

分類A.1.1.0.2/-12-2)

號外	暗	奉天	廿四日後發	亞分
		本省	五月廿四日後着	
		芳澤外務大臣		
		吉田大使宛電報第一六號當館へ轉電ヲ請フ		
		森島總領事代理		

記録簿
滿洲国支那省衛安部増設係十件
支那省衛安部増設係十件
支那省衛安部増設係十件

S 1.1.1.0 - 33 1985 0618

外務省

電信案	外務省
ナリ	
支、北平、聯盟ニ轉電シ支ヲシテ南京へ又聯盟ヲシテ英、伊、獨ニ	
轉電シ佛ニ轉報セシム	
時電報アリ度目下當方ニ於テモ六月末委員會本邦再來ノ際ノ指導應	
酬振ニ付折角準備中ニテ貴方委員側トノ接觸ノ結果ヲ參考トシ度考	

(原職用紙乙)

S 1.1.1.0 - 33 1984 0617

寫送先

大臣 次官
電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

電信課長

昭和7 一二三九七 暗

奉天 本省

五月廿四日後着

亞

芳澤外務大臣

森島總領事代理

第八三七號

吉田ヨリ

第一六三號

往電第一五二號ニ關シ

廿三日委員ハ之カ爲會合シ「リットン」ハ廿日附機密第八二號附屬書中ノ第一點ニ關シ北戴河ハ却テ日支關係ノ調査ニ便ナリトシ米委員ハ既ニ知人ヨリ同地ニ別莊ヲ提供セラレ居リ伊委員ハ伊國首相ノ女婿同地ニ避暑スヘク其他隨員中自己ノ都合ニ依リ同地ヲ希望スル

分類 A. 1. 1. 0. 21-12-2)

外務省

6 1.1.1.0 - 33 1986

0619

者少カラサル趣ニテ本使ノ申入ハ本使自身ノ一種ノ「マニフェスタシオン」ニ過キスシテ政府ノ意思ニ非サルヘシ等言フ者アリ未タ決定ニ至ラサルモ青島説見込少シトノ内報ニ接セシヲ以テ本使ハ直ニ委員長ニ本件ニ付反對セヨトノ電訓ヲ受ケ居ル旨ヲ述ヘタル後左ノ問答アリ

「リ」、最後報告作成地ニテハ參與委員ニ相談スヘキ仕事少カルヘシ

本使、然ラハ本官ヲ作成地ニ伴ハサルヤ

「リ」、其意味ニ非ス

本使、去ラハ相談スヘキコトアリ得ルニ非スヤ

「リ」、「アセサー」ニ諮ルトモ本國ニ問合スヲ要スル大問題ナカ

外務省

1.1.1.0 - 33

1987

0620

寫送先

會文人情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

次大臣
官

電信課長

分類 A.1.1.0.21-12-2

昭和7 一二四〇〇 暗 奉天 二十四日後發 亞
本省 五月二十四日後着

芳澤外務大臣
第八三九號
森島總領事代理

往電第八三三號ニ關シ

二十三日午前午後ニ亙リ第三回會見ヲ行ヒ大体貴電第二七三號及第二八一號ノ御趣旨ニ從ヒ回答セルカ其ノ内質問要領書第四問ノ三ノ「G」及同五ノ「D」ニ關シテハ事政策ニ關スルニ付單ニ私見ヲ述フルニ留メ帝國政府ノ方針ハ東京ニテ質問セラレ度キ旨答へ又同第五問ノ一乃至四ニ付テハ貴電未着ナリシヲ以テ各々東京ニテ承知セラレ度キ旨答へ置キタリ御含迄

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1989

0622

ルヘシ

本使、日本政府ニ問合ノ必要アリヤ否ヤハ本使以外何人カ知ルヤ
「リ」、貴下ハ北戴河ニ行カサル積リナルヤ
本使、余知ラス
「リ」、最後通牒ヲ發スルハ不可ナリ
本使、貴下コソ斯ル質問ヲ發スルナリ
「リ」卿モ餘程窮セリト見エ「アルチメイタム」云々ノ言ヲ用ヒタルカ委員會ハ已ムヲ得ス北平ヲ同地ト變ユル下地ナルカ如シトノ情報アリ成行一應電報ス

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1988

0621

子

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

會計

寫送先

分類 A.11.0.2-12-2.)

昭和7 一二三九九 暗

奉天 本省 五月二十四日後着

亞

芳澤外務大臣

森島總領事代理

第八四〇號

吉田ヨリ

第一六四號

二十三日總領事館ニテ前回ニ引續キ總領事代理ヨリ左記各項ニ付委員ニ對シ説明ヲ與ヘタリ

一、滿洲問題ニ付學良時代何故中央政府ヲ相手トシテ交渉ヲ爲ササリシヤ

二、作霖時代ト學良時代トノ對日態度ノ差異

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1990

0623

三、商租權ノ問題

四、在滿朝鮮人問題

尙總領事代理ハ共產黨ノ活動商租妨害ノ支那側法令、柳原農場問題等ハ書面ヲ以テ説明ヲ爲シ鮮人ノ歸化問題、警察官駐在問題、内地ノ旅行、居住、營業ノ權利等ニ就テハ本省ニテ説明セラル可キ旨答辯ヲ爲シタリ
支、北平へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1991

0624

REEL No. A-0177

0345

アジア歴史資料センター

寫送先

大臣 次官 電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 文書 會計

(分類 A.1.1.0.21-12-2.)

昭和7 一二四四六 暗 奉天 五月廿四日後發 亞、條
 本省 五月廿五日前着 森島總領事代理

芳澤外務大臣
 第八四五號
 吉田ヨリ
 第一六六號

二十四日午前午後ニ亙リ調査員ハ引續キ總領事館ニ於テ森島總領事
 代理ヨリ左ノ諸問題ノ説明ヲ聴取セリ
 一 不當課税
 一 滿鐵附屬地問題
 一 鐵道問題

S 1.1.1.0 - 33 1993

0626

外務省

寫送先

大臣 次官 電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 文書 會計

(分類 A.1.1.0.21-12-2.)

昭和7 一二四二三 略 奉天 五月廿四日後發 會
 本省 五月廿四日後着 森島總領事代理

芳澤外務大臣
 第八四三號
 吉田ヨリ
 第一六五號

本使一行ハ往電第一六〇號ノ通り行動ノ豫定ニ付旅費等奉天ニ電送
 請フ

S 1.1.1.0 - 33 1992

0625 (記)

外務省

寫送先

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

大臣 次官

電信課長

分類A.1.1.0.21-12-2)

昭和7 一二四〇二 暗 哈爾濱 本 省 五月廿四日後着 亞

芳澤外務大臣 第五七四號 齊々哈爾發本官宛電報 合第二〇號 大臣へ電報アリタシ 第八二號 鹽崎ヨリ

ハ廿二日清水領事トノ會見ニ於テ同領事ヨリ黑龍江省ニ於ケル事情 殊ニ軍占據後ニ至ル迄ノ變遷、軍占據ニ對スル省官民ノ態度、中

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1995

0623

記録

長岡總領事代理

四 九月十八日以前ノ諸問題（問題第九中(a)及(b)ハ今後書面提出ノ事）
 五 事變後奉天ニ於ケル公共諸事業
 六 事變後ノ銀行及幣制問題
 七 事變前ノ政治上ノ腐敗
 尙匪賊狀況並ニ内鮮人ノ被害ニ付テハ書面ヲ提出ノ事トセリ
 支、北平へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1994

0627

村事件ノ経緯、支那側條約違反、共產黨及匪賊ノ状況等ニ關シ説明セリ

ニ廿三日午前天野旅團長トノ會見ニ於テ林特務機關長ヨリ大興戰團ノ原因及軍進撃ニ至ル事情次テ濱本大佐ヨリ右戰團ノ状況ヲ説明シタル後旅團長ヨリ黑龍江省ニ於ケル滿洲國軍及反軍ノ配置並ニ匪賊ノ状況ヲ説明シタリ午後程省長ハ日本軍齊々哈爾占據後ノ政情、新國家成立當時ニ於ケル黑龍江省及齊々哈爾ノ状況滿洲國軍及警察及最近ニ於ケル經濟及財政等ニ付質問アリ同省長ヨリ簡單ニ説明スル處アリタリ

尙「ハイアム」ハ滿鐵側及洮昂鐵路代表者ト會見シ主トシテ技術上ノ問題ニ付意見ヲ聴取シ又滿蒙代表及白露人代表モ長春哈爾濱

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1996 0629

ノ例ニ倣ヒ夫々一行ニ對シ陳情スル所アリタリ

ニ一行ハ明廿四日朝龍江驛發汽車ニテ南下洮南ニ一泊ノ上赴奉ノ筈
哈爾濱ヨリ公使、北平ニ轉電アリタシ
哈爾濱、奉天、長春、鄭家屯へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1997 0630

REEL No. A-0177

0348

アジア歴史資料センター

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

記録名

昭和7 一二四一一 暗

長春 本省

五月廿四日後着

亞

芳澤外務大臣

田代領事

第二五二號

齊々哈爾發本官宛電報

第一一號(廿三日後)

大臣へ轉電アリ度シ

第八一號

「アスター」「コツツエ」「ハイアム」「ピットル」「モス」及鹽
崎書記官ノ一行ハ廿二日午後四時半飛行機ニテ來齊午後五時半本官
ヲ來訪シ質問ヲ開始セリ本官ハ廿一日朝林出書記官ノ持來レル

分類A.1.1.0.2/12-2

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1998 0631

一、齊々哈爾占據後ノ政情ノ變化官憲ノ更迭滿洲國ニ對スル態度各種
ノ政治的輿論ノ變遷

二、各種官廳ノ改革及公共事業(郵便及稅關ヲ含ム)ノ執行ニ關スル
新國家ノ活動

三、白系露人ノ數及政治的活動
等ノ諸項ヨリ成ル一行ノ質問書ニ對シ豫メ答辯書ヲ作成シ置キ之ヲ
一行ニ手交スルト共ニ質問ノ大部分ハ滿洲國ノ内政問題ニ屬シ本官
良ク之ヲ辦ヘサリシニ付昨夜滿洲國側ヨリ材料ヲ貰ヒテ答辯書ヲ急
造セリ右豫メ御承知置キアリ度シト付言セリ夫レヨリ五名ハ交々馬
賊問題支那ノ條約違反行爲省黨部ノ活動中村事件蘇聯邦ノ江省軍援
助ノ有無馬占山ノ性行治安維持會ノ性質共產黨問題邦人顧問ノ採用

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1999 0632

REEL No. A-0177

0350

アジア歴史資料センター

寫送先

電信課長
大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
文書
會計

(分類 A.1.1.1.21-12-2)

昭和7 一二五一〇 暗 奉天
本省 五月廿五日後着 亞、條
芳澤外務大臣
第八四七號
森島總領事代理

往電第八四五號ニ關シ
張作霖爆死事變共同調査報告書ニ關シテハ貴電第二七三號ノ次第アルモ當館記録ニ付取調ノ結果當時當館ヨリ右報告概要ノ英譯ヲ當地外國領事ニ送付シ居ルコト判明セルニ依リ廿四日會見ノ際(之ヲ)引用セサル了解ノ下ニ極秘ノ含迄ニ供覽スヘキ旨述ヘ置キタル處廿五日朝「リットン」「ヤング」ト共ニ來館右一覽ノ上本官ノ説明ヲ聽取セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

2001

0634

記録

滿洲省領事館
森島總領事代理
五月廿五日午後着

手續及滿洲國ノ前途等約二時間ニ亙リ相當廣範圍ノ質問ヲ爲セルカ
中村事件條約違反行爲共產黨ノ活動及馬賊問題ニ關シテハ豫メ作成
シ置キタル英文調書ヲ手交シ其他ノ諸問題ニ關シテハ適當ニ應酬セ
リ一行ハ満足ノ面持ニテ午後七時引取レリ
長春ヨリ公使、北平へ轉電アリ度シ
奉天、長春へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

2000

0633